

大明教育 実践の評価

文科省学校評価ガイドラインの指標を基に、学校・保護者・地域住民との信頼関係の構築を図り、開かれた学校づくりを目指していくため、平成19年度より、学校評価のあり方を見直していく方向が南アルプス市教育委員会より示されました。20年度より、7月と12月の2回の学校評価を実施し、1回目の自己評価で明らかになった課題については、努力目標として全職員で共通理解をもち取り組んできました。2回目の自己評価では、成果も多く確認されました。本年度も1回目の評価結果から改めて課題を確認し、今年度の重点目標として、家庭・地域と連携を心がけ、全職員で取り組んでいきたいと思ひます。

評価のねらい

- ◆24年度末の実践の評価および1学期の実践の評価を踏まえ、今年度の課題を明らかにする。
- ◆小中連携及び学校・家庭・地域の連携・協働の場を探る。

<評価方法について>

◇A-よい B-ふつう C-改善が必要 の3段階で評価

◇評価者の職種によっては評価できない項目もありますので、その場合は空欄にしないで斜め線を記入してください。

◇評価欄に斜線がある項目は2回目に評価してください。

◇「気づいたこと」には、率直なご意見を記述してください。特にC評価については改善方法等を具体的に書いてください。

評 価 項 目	評 価		
	A	B	C
1. 教育目標について			
① 学校教育目標・指導重点は適切だったか。	21	2	0
② 学校教育目標が学年学級経営や教科指導に具現化されているか。	14	5	1
③ 学校教育目標や経営方針が児童や父母に理解されるよう配慮されているか。	12	9	0

気がついたこと

・学年通信に学校目標が記されているので、父母に伝わりやすい。

①児童の実態をもう少し詳細に分析する必要がある。大きな目標や重点指導内容はよいと思うが、具体的な指導内容について共通認識を持ちたい。

②パートナーシップという点で、学年間の意思疎通が十分できていたか反省すべきことがある。校内研を柱に、学級づくり、授業づくりを並行してやっていくことはとても大切なこと

・学校教育目標や経営方針の具現された教育活動の様子を、今後学校だよりで伝えていきたい。

・学校だより、学年・学級だより等で数多く発信していくとよいと思う。

<考察>

○①～③の設問に対しては、A・Bの肯定的評価がほとんどであり、学校教育目標は、学校の実態に合っており、日々の教育活動にそれを具現化するための手立てがなされていると考えられる。

○何年か前の学校評価の反省から学年・学級通信には必ず学校教育目標を記入している。毎月、目にする目標なので、保護者には大明小学校の教育目標として理解されていると思われる。

※学校だより、学年・学級だよりで児童の様子や教師の願いなどを伝えていくことが必要だという意見がある。

※学校教育目標の達成を目指して校内のさまざまな組織が動いているが、とくに学年という組織は子ども達に直接かかわる組織であり、学年間の意思疎通を図ることが目標達成のためにはとても大事であるという意見が出ている。

<改善策>

①学年の打ち合わせの時間がなかなかとれない忙しい日常であるが、学年主任のリーダーシップのもと、見通しを持って教育活動を進めていくことが大切。二人の役割分担を決めておくとよい。

2. 経営・組織			
① 学校運営に関する連絡・調整はスムーズか。	12	10	0
② 職員会議は学校運営に適切に機能しているか。	10	11	0
③ 学年打ち合わせが十分できているか。	6	7	1
④ 研究主題は、学校課題に合った適切な内容であったか。	15	6	0

気がついたこと

・現状、生徒指導を重点的に行っていくことが今の学校課題のように思う。生き生きと学ぶ以前の学級経営を全校体制で取り組んでいきたいと思う。

・研究は勉強になるが、とても忙しい中で大変。特に7月の授業研は、授業をされた先生が特に大変だったと思う。

①戸締り、アレルギーなど子どもの安全を守るための学校の方針について、職員間の情報共有がうまくできなかった点、申し訳ないと思います。

②職員会議の提案の方法が変わり、ポイントを話すという点で各自が意識をしている。

・職員会議がいつも長時間になってしまうので、連絡の項目で、終礼でよいものは終礼にまわすなど工夫が必要だと思いました。

・学年間、ブロックで定期的に話し合える機会を明確にしたい。

・報告、連絡、相談、これは徹底していきたいと思います。特に子どものことについては、丁寧に対応していかなければならないと思います。学年間の意思疎通はしっかり取ってほしい。

・決まったことが徹底されていない。各自の問題だと思います。多忙なためうっかりしてしまうが、教師自身様々な提出物など、期限が守れていないこともある。児童に指導していることを自らできていないのはまずい。組織で仕事をしているのだから、常に人のことを気づかいたい。

<考察>

○校内研については、自分の学級経営に直結し、これからの教職員に求められる力をつけるための研究として有意義であるにとらえられている。

※設問①②③については、AとBの評価が分かれた。とくに、②、③については、A評価が低くなっている。教職員が共有していなければならない情報が多くなっているにもかかわらず、十分な情報共有の時間が取れない現実があり、動き出してからあわててしまうといった状況もあるかと思われる。

※1にも意見としてあがってきたが、学年間の情報共有・意思疎通は特に重要だと考えている。

※決まったことが徹底されていない・生徒指導の重要性など、学校生活を円滑に送っていくための基本的なルールやマナーが共有されていない状況が伺える。職員によって対応が異なるようなことはよくないことなので、決めたことはしっかり守る・守らせるという姿勢を貫くことの必要性をあげている。

<改善策>

①今年度の校内研環境整備グループを中心として「学習と生活の約束」として、子どもとともに確認し、統一した指導を行う。

②職員会議が「議事」と「報告」という内容の分け方になったが、まだその差がはっきりしていない。議事については議する、報告は時間によっては読んでおいてもらうという方法なので、内容把握は各自の意識によるところが大きい。時間短縮と内容把握の充実をはかること。

3. 教育課程 (1) 全般

① 教育課程に本校の特色は生かされているか。	12	8	0
(2) 各教科・総合的な学習			
② 教科指導は、教材研究・事前の準備等を行い、わかる・楽しい授業に心がけたか。	11	4	1
③ 創意工夫のある授業実践を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育てることができたか。	7	10	0
④ 各教科の授業時数は確保できているか。	9	6	1
(3) 道徳			
⑤ 教科や他領域との関連に考慮がはらわれているか。	7	8	1
⑥ 道徳的実践・道徳性などが高められていると思うか。	2	12	3
(4) 特別活動(学級活動・児童会活動)			
⑦ 学級活動は、自主的・自発的に運営されたか。	5	10	0
⑧ 児童会活動は、自主的・自発的に運営されたか。	16	3	0
(5) 学校行事			
⑨ 学校行事は適切に計画的に実施されているか。	12	9	0

⑩ 学校行事は、学校生活に活力を与えるよう計画運営されているか。	14	7	1
----------------------------------	----	---	---

気がついたこと

- ・学期末のクラブや心肺蘇生法など、行事の時期が機能的ではない。学校状態を考えて、様々なことを行った方が効率的だと思う。終業式が1時間というのもちょっと・・・
- ・毎日が忙しく過ぎていき、行事が活力になっていると言われると、少し疑問が残ります。精選、工夫が必要だと思います。
- ・担当の先生方の計画から実施までのていねいな対応がすばらしかったです。いろいろな行事が重なることがありましたが、事前に打ち合わせをしっかりと、お互い協力し合うことも大切だと思いました。
- ・行事が多く、ゆっくり学習に取り組むことができなかつたように感じる。
- ・朝の会が長くなり、1校時が45分間できないことが多かつた。下校時刻も予定より遅くなることもあり、下校のパトロールの方にも申し訳なかつた。
- ・次から次へとやらなければならないことがあり、教材研究や授業の準備の時間も十分取れない。
- ・道徳の時間で、子どもたちに正しい判断をして行動することの大切さを伝えてはいるが、子どもたちの行動として表れないところがある。いろいろな先生方の指導方法を聞く機会を進んでつくりたい。
- ・7月17日のクラブは、諸表簿の前でもあり、厳しい。

<考察>

○行事の目的が果たせるようにと、忙しい中、担当者は丁寧な計画と準備を行いすばらしいという意見がある一方、行事が多くあわただしさを感じているという意見もある。教育活動の進行に伴い、授業の進捗状況や児童の実態など年間行事計画段階では見通せない忙しさというものも出てきていると思われる。

※(2)の各教科、総合的な学習について、教師は教材研究を熱心に行い、わかる楽しい授業の工夫に心がけたが、児童の学ぶ意欲や態度を育てることは難しいと感じている。また、やらなくてはならないことが多くて教材研究に十分時間を当てられないという状況がある。

※時期の変更などを含め、行事について見直しが必要だという意見が出ている。とくに、年度の始まりや学期のまとめなど、落ち着いて学習に取り組みたい時期の行事については再検討が必要であろう。

※道徳の授業が、子ども達の普段の行動や考え方、生き方になかなか結び付いていないと感じている先生方が多い。

<改善策>

①行事は本校の特色ある教育活動の一環として大きな役割を果たしている。学級集団作りのかなめとなる4月の行事を精選することで、その後の活動が効果的に行えるようになる。

ア 4月の授業参観、PTA総会の日の学年部会は6年生だけとする。1～5年生の部会は、5月に実施。

イ 家庭訪問を5月の連休の合間に実施するようにする。

②子ども達の学びへの意欲「いきいきと学び合う姿」については、校内研を通して研究を深めているところである。実践と検証を通して、また教師の学び合いを通して深めていくことしかない。

③全職員で子ども達に心を寄せ、一貫した指導を行う。

4. 学級経営・生徒指導

① 児童との心のふれあいを深め、豊かな人間関係を築く学級づくりに取り組めたか。	10	4	0
② 職員が共通理解をもち生徒指導を推進しているか。	8	12	1
③ 支援委員会を中心とした支援は適切に行われたか。	9	10	0

気がついたこと

・個々に応じた指導は大切だと思いつつ、学年学級に関係なく指導することは大切だとは思いつつ、あまり分からない(情報のない)中で、安易に声かけや指導ができない、もどかしさがあります。

・職員が共通理解をもつような場面はあると思います。個人の能力差もあると思いますが、児童理解の大切さ、必要性をもう一度確認する必要があると思います。

②共通理解が図られていないところが見られた。

③支援内容の具体と役割がはっきりせず、「様子を見る」という対応になってしまいがち

・課題を抱えた児童がとても多い。学級づくりのために児童と向き合う時間がもっと必要だと思う。そのために、多忙化解消が喫緊の課題だと思う。具体的に 軽重をつけるもの、省くものなどを検討した方がよいと思う。

・支援委員会をひらいていただいたり、児童の情報交換をしたりする中で、子どもをたくさん目を見て指導するための共通理解ができてよかった。

①困難な状況にあるクラスもあるが、職員は粘り強く取り組んでいる。学級懇談会などもコーディネーターを中心に、学校体制として臨んでいる。このような状況についてもオープンで話し合いができるといいですが。

・問題のある子への声かけを全校の先生方がしてくださっていることに感謝します。

・個々の子どもたちへの情報を共有する中で、指導の方向をきちんと定め、共通の対応ができるといいと思いました。

<考察>

○たくさんのお意見が寄せられた。改善が必要という評価は②の設問の1名だったが、②③の設問については、A評価・B評価が分かれた。どのクラスにも対応が難しい児童がおり、担任一人の対応では手が回らず、支援の要請も多かった1学期である。支援委員会を開くなど、学校態勢で支援に臨んでいたことに対する評価がある一方、全校体制という言葉はあっても、指導の方向性が共通理解されていなかったのではという意見がある。

○困難な状況を抱えるクラスについての状況や対応をオープンに話せることが大切だという意見がある。

※全校職員が共通理解を持ち、共通の対応ができるようにすることが大切だと考える意見が多い。

※児童と向き合う時間の確保が重要だという意見があるが、一つひとつの行事や活動に取り組む際に付随するさまざまな業務の積み重ねが仕事の時間を圧迫していること、下校時の安全確保のために放課後の児童と過ごす時間がないことなどさまざまな要因が重なり、ゆっくりと児童と関わることができない実態がある。

<改善策>

①職員が共通理解を持てる場が「児童の情報交換会」や「終礼」である。この時間の有効活用を図る。あまり網羅的な取り上げ方をせず、ポイントを絞る。その児童についての現状と分析、手立てについて説明する。さらに、周りの先生方からの発言も重要であるので、それぞれの立場で気づいたことを発言するように互いが意識をもって行う。

②行事の精選については、3教育課程でも出てきているが、学級集団作りのかなめとなる4月、9月の行事を精選することで、落ち着いた雰囲気の中でスタートを切れるようにする。

5. 家庭・地域社会との連携

① 授業参観・懇談会は適切だったか。(回数・内容・出席率)	10	7	0
② PTA活動は目標達成のため計画的に展開されているか。	12	8	0
③ 児童の登下校時において安全が確保されているか。	15	5	0
④ 学校応援団を有効に活用できたか。	10	9	0

気がついたこと

・4月の授業参観・総会・部会の日と次の授業参観が近いように思いますが、どうでしょうか。

・4月5月が忙しいでしょうか。回数は適切だったと思うが、時期の検討が必要。

・懇談会が、学校と保護者の距離を近づける手段となっていなかった。保護者とつながりあえるような取り組みが必要だと感じた。

・今年は安全パトロールの方々に来校して紹介させていただき、日頃の感謝の気持ちが伝えられてよかった。

・地域の方のご協力により、安全確保ができていてありがたい。(100%完全にということは無理だと思う)ボランティアの方も来て下さり、ありがたい。

・安全パトロールの皆さんのご協力には頭が下がります。ありがたいです。

・担任している児童とその保護者とは、信頼関係ができた。

・裁縫の応援団はとても助かった。

<考察>

○PTA活動や学校応援団の活用についてA評価とB評価が分かれた。改善が必要という意見はないが、その活動が必要だとわかっているにもかかわらず、忙しい4月や5月には避けたいという保護者の本音も見える。地域の安全パトロールの皆さんや、学校応援団の皆さんの活動には感謝の声が多い。

○学校応援団が4年目を迎え活用数も、順調にのびている。地域の力を学校教育に積極的に取り入れることで、地域の人々との関わりが生まれたり、きめ細かな指導につながったり、子どもに注がれる地域の目が増えたりと、地域ぐるみで子どもを育てていくことが可能になってくる。気が付いたことにも肯定的な意見が寄せられている。

6. その他

① 子どもたちは、あいさつができていたか。	7	13	1
② 給食中のすごし方やマナーに問題はないか。	3	14	3
③ 清掃指導にしっかり取り組めたか。	7	12	1
④ 読書意欲を高めるような指導ができていたか。	12	6	0
⑤ 保健指導がしっかりできていたか。	11	7	0

気がついたこと

- ・学級に、担任以外に給食の準備・片付けに入って頂けたのは、1年生としてとてもありがたかったです。
- ・給食の量が日によって差があります。調整をして頂きたいです。
- ・給食は「楽しく会食する」ことも目標です。マナー・エチケットをしっかりと身に付けさせたいです。
- ・給食中の過ごし方がしっかりできていないので、2学期はしっかり行っていきたい。

①児童会のあいさつ運動がとても効果的だった。

- ・児童会の取り組みは、とてもよいと思う。一人一人の子どもの意識を高めるために、クラスでの取り組みが必要だと思う。

・あいさつは、しない子もいるし、さわやかさが少ないあいさつが多い気がする。

・挨拶は、もう少ししっかりできるようにしたいです。大明小という、あいさつが素晴らしいと言われるくらいに。家庭の協力が必要ですね。

・1年生は、図書の時間は毎回1冊本を読んでもらい、火曜日は委員会の子たちの紙芝居、木曜日は石田先生の読み聞かせがあり、本に触れる機会も多く、子どもたちはとても楽しみにしている。

・朝の読書タイムは、地域の方や図書委員会の読み聞かせなど、図書の時間は樋泉先生の読み聞かせと、十分されていると思う。だから、ききみみずきんのお話の会は不要だと思う。

・「廊下を走らない」取り組みをもう少し強化していきたい。

・廊下を走る子がなかなか減らない。

・先生方も時間を守るという意識が低い人が多いように思う。指導にも出ている。

・清掃場所によっては、教師の目が届かないところがあった。事前に子どもたちにしっかりと指導をして取り組ませるべきだった。

<考察>

○読書指導、保健指導についてはよいという評価が多い。給食指導や清掃指導、あいさつについては、不十分だと感じている先生方も多い。とくに読書については、朝の読書タイムが子どもの生活のリズムとなって身についてきていると感じているようだ。

※給食時の食事マナーについて指導が必要だと感じている先生方が多い。

※あいさつについては、児童会の取り組みが効果的だと感じているが、ひとり一人の意識が高まるまでにはいっていないと感じている。やらされているのではなく、自分からできるようにするために各学級での取り組みや、家庭の協力も必要だという意見がある。

※読み聞かせボランティアが5名になったのはとてもうれしいことである。それぞれが研究して本の選定をしているので、子ども達もとても楽しみにしている。これまでいきいき教育として「ききみみずきんお話の会」の方に来ていただいていたが、あえて来ていただかなくてもよいのではないかという意見がある。

※廊下を走らないという決まりを何とかして守らせたいという意見がでてくる。

<改善点>

①学級活動についての評価で学級活動が自主的・自発的ではないと感じている先生方も多い。学級活動の中に、子どもが自分たちの生活について考えることを議題としていく。